

# 道徳の時間学習指導案

世羅町立甲山中学校  
指導者

- 1 日 時 平成 30 年 11 月 15 日（木） 第 4 校時
- 2 学 年 第 1 学年 B 組 23 名（男子 11 名，女子 12 名）
- 3 場 所 A 棟 2 階 1 年 B 組教室
- 4 主題名 自律の精神【内容項目 A-(1)自主，自律，自由と責任】
- 5 ねらい 二人の勝負への姿勢を考えることを通して，自律の精神を重んじることの大切さに気づかせ，誠実に行動しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。
- 6 教材名 「ネット将棋」（出典 文部科学省『私たちの道徳』）

## 7 主題設定の理由

### ○主題観・価値観

本主題は、『中学校学習指導要領特別の教科 道徳編』の A-(1)「自律の精神を重んじ，自主的に考え，判断し，誠実に実行してその結果に責任を持つこと。」に基づくものである。

中学校では小学校までと違い，学校行事や部活動において他者と競い合う場面が多くなる。ここでは明確に勝ち負けが決まる場面も少なくない。このような活動を通して成長していくためには，勝負の結果がどうであれ，結果を誠実に受け止めることが大切である。相手に対しての誠実な行動や，感謝や礼儀を伴った行動を取るためには，自分の中に規律をつくり，それに従って考え，判断し，行動に移して，その結果に責任を持たなければならない。しかし，中学校の段階では，自分自身の行為が自分や他者にどのような結果をもたらすかということを深く考えないまま，無責任な行動をとったりすることもある。

そこで，生徒には，勝負に対する姿勢の違う二人の登場人物の姿が描かれた教材を提示し，二人の登場人物と自分とを照らし合わせながら考えさせることで，どのように考え，判断し，行動していくことが良いかを考える機会としたい。また，そのことを通して自律の精神を重んじることの大切さに気づかせ，日常生活において，誠実に行動しようとする道徳的実践意欲と態度を育てたいと考え，本主題を設定した。

### ○生徒観

本学級の生徒に事前に実施したアンケートでは，90%以上の生徒が「上達したいという気持ちを持って頑張っていることがある」と回答している。そのうちのおよそ 60%の生徒が「負けて悔しい思いをした経験がある」と回答している。具体的には部活動の大会や体育大会などで負けたときのことを例として挙げている生徒が多かった。また，7月に行われた校内球技大会では，

勝ちにこだわるあまり、他人の気持ちを考えない言動をする生徒がいたため、全体指導を行った経緯もある。以上の事から、中学校生活で様々な活動に一生懸命に取り組む中で、思うようにいかず、悔しい思いをする経験をした生徒が多いことがわかる。本学級の生徒がこの経験を生かし、さらに成長するためには、悔しい思いをどのように受け止め、次に生かしていくかということ、自己の経験と重ねながら深く考えることが必要である。

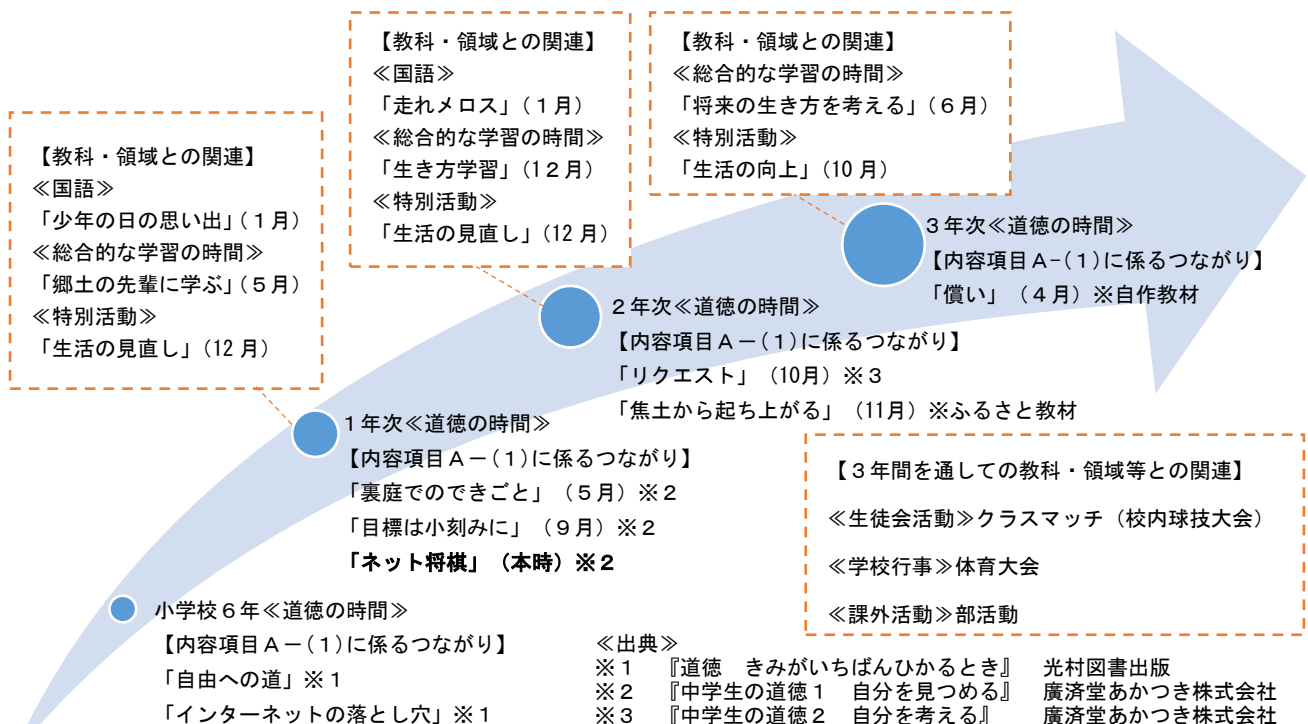
### ○教材観・指導観

本教材「ネット将棋」は、主人公である「僕」と将棋仲間である敏和の姿の比較を通して、自律の精神を重んじ、誠実に行動することの大切さについて考える教材である。「僕」は将棋の上達を目指し、敏和がやっているというネット将棋を始める。しかし、弱い相手を見つけては勝負したり、負けそうになるとログアウトしたりと、勝ち負けにこだわった不誠実な行動しかとれず、一向に上達しない。一方敏和は、負けを素直に認め、その後の感想戦を大切にしようとするなど、自律の精神を重んじた考え方ができている。その考え方は、対局後の「負けました」「ありがとうございました」という言葉やその他の誠実な言動に表れており、結果的に将棋の上達に繋がっている。

指導に当たっては、2人の考え方と行動を整理し、対比させる。本学級の実態から「僕」の悔しさに共感できる生徒は多いと考えられるため、どうして敏和はその悔しさを乗り越えて誠実な行動ができるのかということを考えさせる。このことにより、勝負の結果を自分の成長につなげるためにはどう考え、どう行動すればよいかを自分ごととして考えさせ、道徳的実践意欲と態度の育成につなげたい。また、電子黒板を用いて場面を視覚的に捉えさせたり、タブレットと電子黒板を連動させて自分の意見を直接全体へ反映させたりすることで、生徒が多面的・多角的に考えることができるよう、ICTを効果的に活用していきたい。

## 8 指導のポイント

### (1) 本教材の3年間を通しての学習活動のつながり



(2) かかわり合う場の充実にむけたポイント

㊦ じん（個人）で考えを持つ	個人思考の時間を十分に設定することにより、発問についてじっくり自問させ、考えを深めさせる。
りゆ ㊧（理由）を整理して伝える	ペア学習において、相手からの質問を受けさせることにより、自らの考えの理由を整理させる。
さま ㊨ま（様々）な角度から考える	I C Tを活用して、僕と敏和の将棋に対する姿勢をそれぞれの視点から整理し、比較させる。
じぶ ㊩ん（自分）ごととして考える	敏和の行動の理由を考えることで、今までの自分を振り返り、これからの生活につなげていく。

9 評価の視点

【視点1】多面的・多角的な見方へと発展しているか。

- ・敏和の誠実な行動の理由やその時の心情をさまざまな視点から捉え考えようとしている。

【視点2】道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

- ・敏和の行動の理由を自分に置き換えて考え、自らの生活や考えを見直している。

10 準備物 教材，電子黒板，タブレット型P C，ワークシート

11 学習指導過程

	学習活動	主な発問と予想される生徒の心の動き 主な発問 (○) 中心発問 (◎) 予想される生徒の反応 (・)	○指導上の留意点 ☆評価の観点
導入	1 将棋について知る。	○この映像は何をしているところでしょう。 ・対戦ゲーム ・将棋をしている。 ・対局後の振り返り（感想戦）をしている。	○将棋というゲームの特徴を簡単にとらえさせる。
展開	2 資料を読む。 3 内容を整理する。	○印象に残った部分はどこでしょう。	○資料を範読する。 ○印象を聞きながら、登場人物や物語の要所を押さえることで本時で考える内容への方向付けとする。
	4 「僕」と敏和の違いを押さえる。 【ペア学習】	○「僕」と敏和はどんなところが違うだろう。	○タブレット型P Cを用いて対比的に整理させる。

		<p><b>【僕】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・負けそうになると時間稼ぎ，ログアウト。</li> <li>・弱い相手とだけ対戦する。</li> <li>・負けたくない</li> </ul>	<p><b>【敏和】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「負けました」と言える。</li> <li>・負けても「ありがとうございます」と言える。</li> <li>・楽しんでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が整理したものをもとに，2人の将棋に対する姿勢の違いを押さえる。</li> <li>○僕の将棋に対する姿勢については，その理由についても押さえながら進める。</li> <li>○タブレット型PCを用いてアンケートを取り，集計結果を電子黒板に表示する。</li> </ul>
<p>展開</p>	<p>5 敏和の行動の理由を考える。 【個人思考→全体交流】</p>	<p>○敏和にあって「僕」にたりなかったものはなんだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・負けを認めることができる心。</li> </ul> <p><b>補</b> なぜ負けを認めることができるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・負けを認めることで，感想戦の内容が頭に入ってくる。</li> <li>・負けを認めることが上達につながると考えている。</li> <li>・自分に足りない部分を見つめ，振り返ることができ，相手の意見を素直に聞くことができる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将棋が強くなりたいと思う気持ち。</li> </ul> <p><b>補</b> 強くなりたいのは「僕」も同じでは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勝ち負けではなく，勝負を通して勉強をしている。</li> <li>・自分一人では強くなれないことを理解している。</li> </ul> <p><b>補</b> 強くなればいいのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身に勝つことも大切。</li> <li>・自分の行動に責任を持つ。誠実さ。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・努力をする力。</li> </ul> <p><b>補</b> 「僕」も努力をしているのでは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・強くなる方法を自分で考えている。</li> <li>・将棋を楽しむから努力が続く。</li> <li>・僕の努力は勝つため。敏和の努力は成長のため。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○敏和の行動の理由を自分なりに考えさせる。</li> <li>○補助発問等で，生徒が深く思考しようとする場面では，必要に応じてペア活動を設定する。</li> <li>○必要に応じて切り返し発問を行うことでさらに深めていく。</li> </ul> <p><b>【視点1】</b></p> <p>敏和の誠実な行動の理由やその時の心情をさまざまな視点から捉え考えようとしている。</p> <p><b>【視点2】</b></p> <p>敏和の行動の理由を自分に置き換えて考え，自らの生活や考えを見直している。</p>	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・礼儀正しくすること。</li> <li>補 どうして礼儀正しくできるの？</li> <li>・対戦してくれたことへの感謝の気持ちがあるから。</li> <li>・素直に負けを認めていることが態度に表れている。</li> <li>・自分が試されている気がする。</li> </ul>	
終末	6 学習のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今日の学習で考えたことを書きましよう。</li> <li>・勝つために努力することは大切だけど、もっと大切なのは負けた後どうするかだと思った。</li> <li>・上達するには勝ちも負けも素直に受け止めることが大切だと思う。今後の部活動に活かしていきたい。</li> <li>・自分を振り返り、反省点を見つけたり、相手から学ぶ姿勢をもって素直に行動したりしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○評価の視点にそった感想を意図的指名により発表させる。</li> <li>☆自律の精神を重んじることについて自分なりの考えを持ち、今後の生活に活かそうとしている。</li> </ul>

## 12 板書計画

